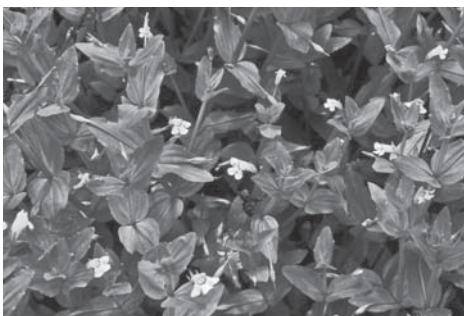


ただみ水田雑草考④

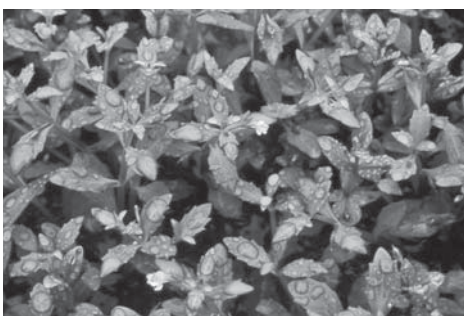
水田の帰化植物

幕末以降、人間の活動とともに外国から渡来し日本に野生化した植物を帰化植物(新帰化植物)と呼んでいます。セ

イタカアワダチソウやブタクサはその代表格です。彼らの好んで生える環境は、土地の造成や河川の氾濫あるいはゴミの投棄や水質汚濁など、自然が何らかの攪乱を受けた場所が多いようです。水田や畑も、自然の側から見れば、以前は湿地や林野であった場所に耕作という一種の攪乱が加わった土壌ですからその例外ではありません。只見町の水田や休耕田ではアメリカセンダングサ(セイタカタウコギ)、タケトアゼナ、アメリカアゼナ、アメリカタカサブロウ、オオクサキビの五種類が確認されました。こ



▲タケトアゼナ



▲アメリカアゼナ

のうち、出現頻度が高かったのはアメリカセンダングサとタケトアゼナです。

アメリカセンダングサは、草高1m以上になる大形の植物で、大正時代に日本に渡来し、在来種のタウコギを追い払いながら全国に分布をひろげてきました。只見町でも、いたるところで見ら

れます。花に短い花弁があり全体有毛でやや紫褐色を帯びることによりタウコギから区別されますが、どちらも稲刈りの邪魔になる点では同じです。

タケトアゼナは、草高10〜20cmの小形の植物で、昭和中期に北米から日本に渡来しました。雄蕊おしべ四本のうち二本には葯やく

がなく、葉に鋸齒きょしがあつて基部ちかくがもつとも幅広い点で在来種のアゼナから区別されます。二〇〇四年発行の『会津只見の植物』(只見町文化財調査報告書第二集)にはタケトアゼナという植物名はなくアメリカアゼナだけが多くの地区に記録されていますが、それらの中にはタケトアゼナに相当するものも含まれていたのではないかと思われま

す。狭義のアメリカアゼナは葉の基部がクサビ形になり、タケトアゼナの学名上の亜種とされているのですが、互いに亜種として区別しない場合は、両者ともアメリカアゼナとして扱われることがあるからです。近年、この狭義のアメリカアゼナは溜池の湿地などに追いやられ、水田環境ではむしろタケトアゼナの方が優勢になつています。同じ昭和中期に渡来したアメリカタカサブロウも、今では在来種の花カサブロウに取って代わつています。このように、一見同じようにみえる



▲アゼナ

雑草の世界にも人間活動の変化にともなつた栄枯盛衰があるのです。

ところで、アゼナそのものは在来種と言いましたが、じつは有史以前にイネとともに東南アジアから渡来したもので、年代を幕末よりはるか以前にさかのぼつて議論する場合は史前帰化植物などよばれることがあります。イヌビエ、コナギ、イボクサ、タウコギ、ミズガヤツリなどおなじみの水田雑草もその仲間と考えられています。